

# 山陰海岸コース



## スナガニのつぶやき

ぼくは城原海岸に住んでいるスナガニです。砂浜によく穴があいているでしょう。あれはぼくの家への入口です。ふだんは穴の中に入っているのですが、あまりお目にかかることはないのですが、ぼくはいつも、自然観察ではなくて人間観察をしています。そして考えてしまいます。ほんの一部の人たちなのかもしれませんが、空カンやビニール袋などのゴミを残して海岸を汚します。チリも積もれば……、どうして皆で楽しむ場所は皆できれいにしないんでしょう。

でも、皆さんはぼくたちの味方です。いつまでも、ハイキングや自然観察をとおして、浦富海岸のすばらしい自然と付き合ってください。

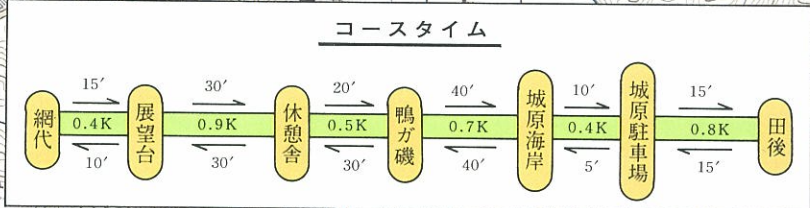
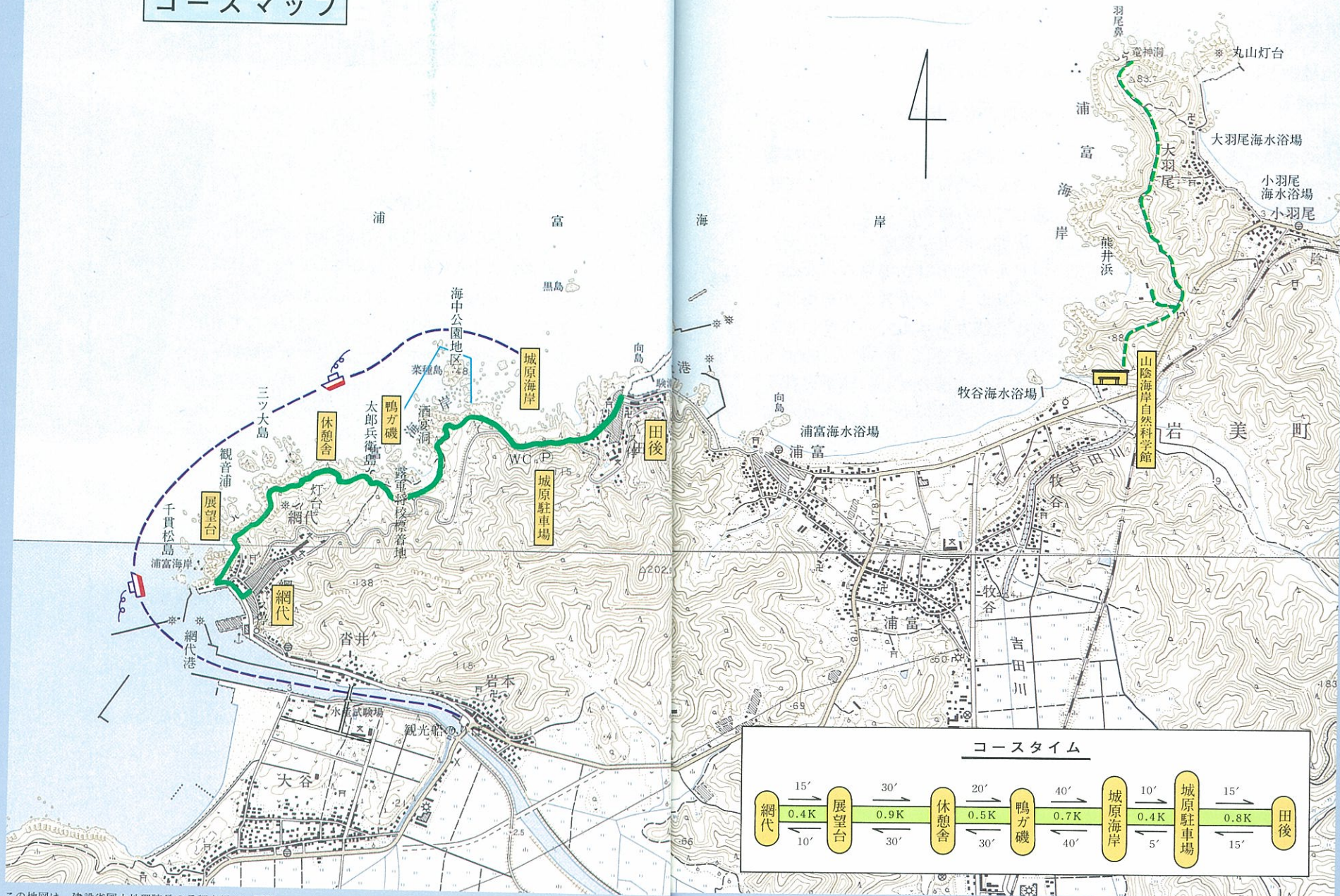
浦富海岸は、山陰海岸国立公園の中でも特に美しい風景地であるばかりでなく、植物の種類や海辺の生物が多く、また、地形も変化に富んでいます。ですから、四季を通じて、いろいろな自然の魅力が感じられます。

また、すこし東の方になりますが、牧谷には県立山陰海岸自然科学館があって、自然観察の基地になっています。

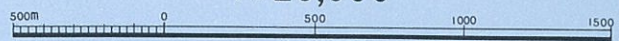
ぜひ訪ねてみてください。



# コースマップ



1 : 25,000



この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2.5万分の1地形図を複製したものである。  
(承認番号) 平3中複、第91号

# 植物

## ●海浜植物あれこれ(浦富海岸)●

海浜植物というのは、断崖や砂浜に生育している植物のことです。

これらの植物の中には、タイトゴメ・テリハノイバラ・ハマボックス・トベラ・ハマハタザオ・ハマゼリなどのように、岩場や石ころの多いところに育っているものがあります。また、ハマグルマ・ハマエンドウ・ハマヒルガオ・スナビキソウ・ハマウド・ナミキソウなどのように、砂浜に生育しているものもあります。

これらの海浜植物がどのような水平分布をしているか、断崖植物はどのような垂直分布をしているか、などを調べてみると興味深い結果がみつかります。

## ●海浜植物の特徴●

海浜植物は、それぞれ共通した特徴を持っています。すなわち、根や地下茎が平地の植物よりも発達していること、乾燥や塩風に強いこと、葉は厚くてつやのあるものが多いこと、そして、砂に埋まってもその下から発芽することのできるのです。

このように海浜植物は、平地植

物に比べて強い紫外線や塩風にさらされながら、きびしい自然環境にうまく適応し、たくましく生育しているのです。

## ●海浜の寄生植物●

寄生植物というのは、他の植物のつくった養分をよこ取りして生活している植物のことです。

最近、砂浜に育つハマゴウやハマヒルガオ・コウボウムギなどにアメリカネナシカズラが寄生し、大きな被害を与えています。まるで黄色い絨毯(じゅうたん)のように多くの茎をのばし、植物の体を覆ってしまうので、寄生された植物(寄主)は光合成が不可能になり、やがて枯れてしまいます。

もう一つの寄生植物にハマウツボがあります。これは、カワラヨモギやオバナ(ススキ)の根に寄生します。

ハマウツボは夏から秋にかけて20cm前後の茎を直立し、その頂上にうす紫色の花を穂状につけます。

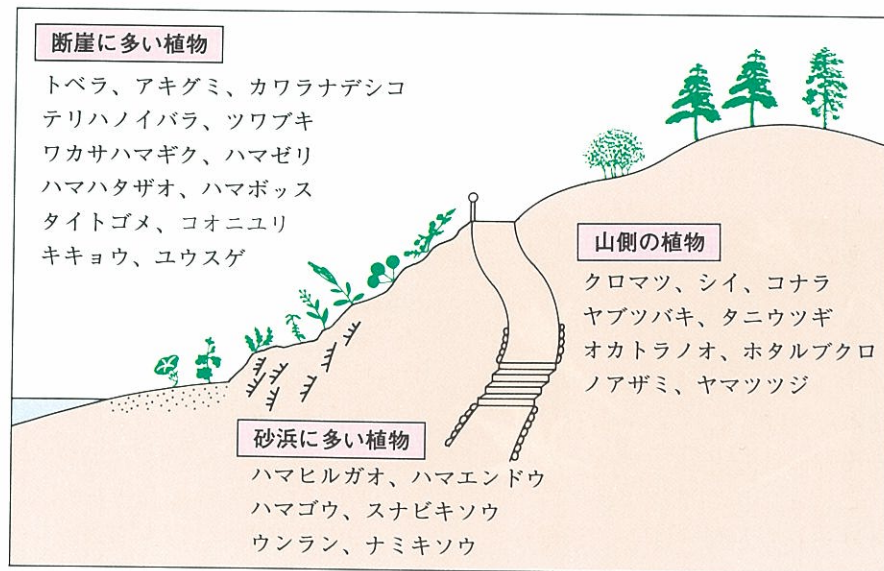
これらの寄生植物は山陰海岸でも発見されており、いずれも葉緑素を持っていません。

## ●海岸遊歩道をいろいろの秋の植物●

トベラが青い実をたくさんつけ

ています。海辺の岩の上にはコオニユリやキキョウが咲いています。そのほか日あたりのよい草むらにはリンドウが群生し、ワカサ

ハマギクの白色の花が印象的です。アキグミの果実が色づき、ハマベノギクの紫色の花が汐風にゆれています。



## ●浦富海岸の海そう●

複雑な岩石海岸に恵まれているため多くの海そうが観察できます。

真水の流れ込んでいる海岸線には、とくにアナアオサ、ジュズモ、アオノリ、ミルなどの緑色藻類が生育し、少し深くなると、ウミトラノオやイソモク、ウミウチワなどの褐色藻類が見られます。もっと深いところには、イバラノリ、ムカデノリ、テングサ、ツノマタ

類などの紅色藻類が育っています。

海そうが生育するためには四つの要素が必要です。塩分、日光、あたたかさ、そして海そうがくっつく岩や石があることです。

これらの海そうの大部分は、水の深さがおよそ25メートル以内のところに多く育ち、日光のまったく届かない180メートル以上の深海には生育することができません。



コオニユリ(ユリ科)  
花期(7~9月)



ハマハタザオ  
(アブラナ科)  
花期(6~7月)



ユウスゲ(ユリ科)  
花期(7~8月)



ハマゴウ(クマツヅラ科)  
花期(7~9月)



ハマヒルガオ  
(ヒルガオ科)  
花期(5~6月)

## 動物

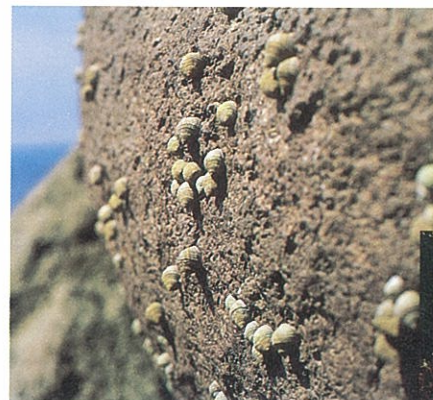
### ●観察のポイント●

網代から田後にかけての岩石海岸は、波の浸食によって変化のある地形が広がっています。恵まれた環境ゆえに、そこに生息する動物の種類も多く、すばらしい生物の世界を見ることができます。

観察しやすい海岸動物の多い潮間帯は、日本海沿岸で約30cmにす

ぎないので、干潮・満潮の時間帯に注意をしなければなりません。

観察をする時には、ただ種類のみにとらわれなくて、どんな場所にいるか(砂浜、岩のくぼみ、転石の下、波の弱い所など)、どんな様子でいるのか(足でつかまる、吸盤のように吸いつく、足糸で付着する、触手を出しているなど)、注意深く観察しましょう。



アラレタマキビ



シロウミウシ



イトマキヒトデ

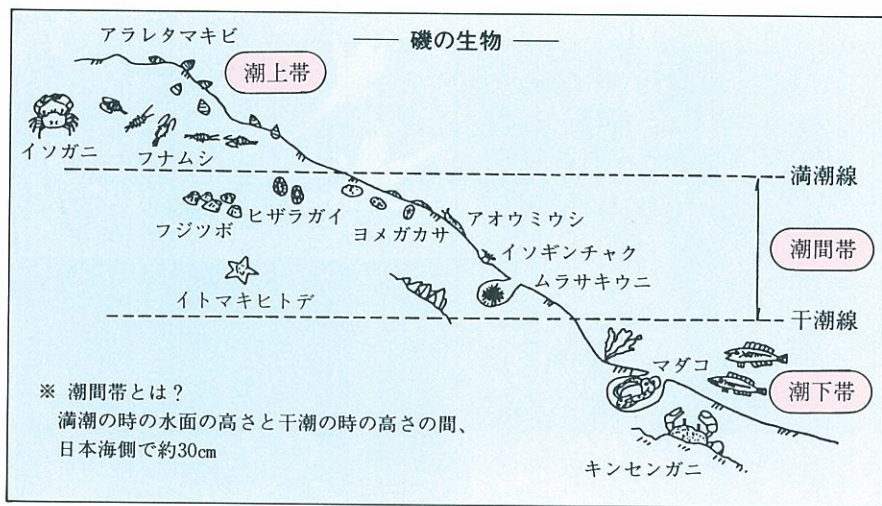
●鴨ヶ磯海岸の動物概要●

磯に雑然と生息しているように見える動物ですが、潮上帯・潮間帯・潮下帯と区分して観察すると、環境に応じて住み分けしていることに気づくでしょう。

潮上帯…アラレタマキビ、フナムシ  
潮間帯…ムラサキウニ、イトマ

キヒトデ、アメフラシ、アオウミウシ、イシダタミ、ヨメガカサ、ムラサキガイ、フジツボ、カメノテ、ウメボシイソギンチャク、ケヤリムシ

潮下帯…魚類、マダコ、キンセンガニ



●城原海岸の動物概要●

岩礁と砂浜の海岸が交錯するこの地帯は貝類が多く、打ち上げ貝の採集地として県下でも絶好の地です。多く採集できるのは、北西の季節風の強い冬季ですが、それ以外でも40~50種類は採集可能で

す。前面が直接外海に開いた所では、こぶし大の円礫があり、打ち上げ貝は少ないのですが、前面に島のある所では、砂粒と共に打ち上げられた貝が多く、しかもあまり破損していません。希産種として、エビスガイ、メ

ダカラガイ、チャイロキヌタ、スカシガイ、チヨノハナガイ、マツカゼガイ、ハナガイなどがあります。

●一般に見られる主な動物●

〈鳥類〉 ウミネコ、ウミウ、イソビヨドリ

〈魚類〉 キヌバリ、ドロメ、クジメ、キュウセン、ウマズラハギ、イシダイ

〈棘皮類〉 ムラサキウニ、アカウニ、パフンウニ、イトマキヒトデ、クモヒトデ、ウミシダ

〈軟体類〉 アメフラシ、アオウミウシ、シロウミウシ、マダコ

〈貝類〉 アラレタマキビ、イシダタミ、エビスガイ、カニモリガイ、イボニシ、スガイ、クボガイ、カモガイ、トコブシ、ヨメガカサ、ヒメイガイ、トマヤガイ、コベルトフネガイ、ツタノハガイ、チリボタン、アコヤガイ、ムラサキガイ

〈節足類〉 フナムシ、イワフジツボ、アカテガニ、イワガニ、イソガニ、ヒライソガニ、ヤドカリ類、

イソスジエビ、ワレカラ、カメノテ

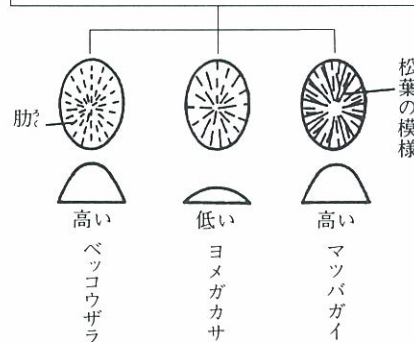
〈環形類〉 ケヤリムシ

〈腔腸類〉 ウメボシイソギンチャク、タテジマイソギンチャク、シロガヤ

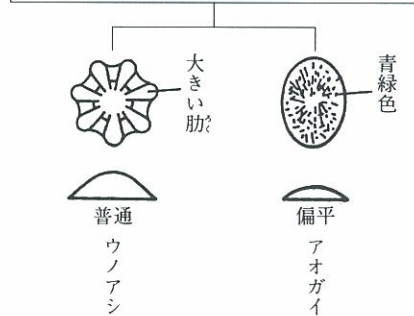
〈海綿類〉 ダイダイイソカイメン、ムラサキイソカイメン

—笠貝の見分け方—

貝ガラ内面の真珠光たくが美しいもの



貝ガラ内面の真珠光たくが美しくないもの

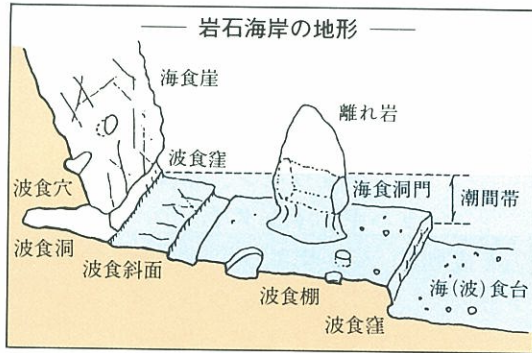


# 地形・地質

## ●地形について●

浦富海岸といわれるのは、鳥取県の東端陸上岬から東浜・羽尾岬・浦富・田後・網代・大谷・駟馳山に至る東西約15kmの海岸の総称です。この海岸は兵庫県北部からの一連の沈降海岸で、海岸線は複雑に入り組んでおり、いわゆるリアス式海岸です。景観はすばらしく、国立公園特別保護地区に指定されているように、変化に富んだ絶景が各所に見られ学術的にも価値の高い地域です。自然歩道や浜辺から見られる代表的な海岸地形は、ノッチ・海（波）食台・海食

崖・海食洞・海食洞門・離れ岩・海浜及び砂丘・海岸段丘など、まさに教科書的です。いずれも長い期間を要したはげしい風化作用と、海水（波浪・沿岸流・潮流・



海流)の浸食・堆積作用の結果による自然の造形です。一方、内陸に目を向けると、小規模ながら沖積平野・扇状地・扇の山北麓の山地地形が観察できます。



海食洞

上空から見た浦富海岸



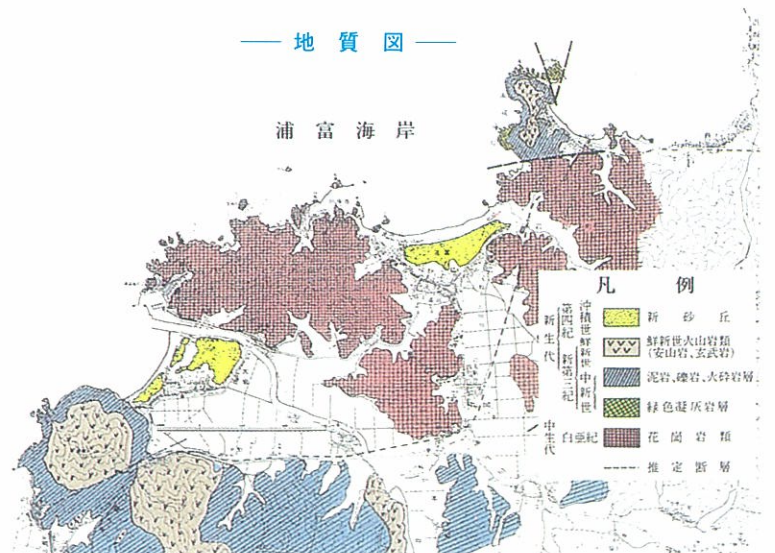
## ●地質について●

鳥取駅から車で約30分、網代港で下車するまでの車窓からは、砂丘トンネル付近から細川地内まで黄褐色の地層（新第三系、凝灰角礫岩層）が観察できます。やがて安山岩（鮮新世火山岩）の駟馳山峠を下り、終点の網代に入ると地質が大きく変化することに気づくでしょう。浦富海岸遊歩道一带は粗粒の黒雲母花崗岩地帯なのです。

縦横に無数に発達した節理は、風化・浸食作用の著しい海岸側によく見られ、各種の海岸地形は岩石がこの節理面に沿って崩壊し、発達したもののなのです。切り立つ

崖、大きく食い込んだ海食洞など、そばに立って観察すると自然界の営力におどろきさえ感じます。ここ浦富海岸で東西に分布するのは鳥取花崗岩といわれ、黒雲母を有色鉱物とし、全体的には粗粒ですが、注意深く見て歩くと岩相の変化があることがわかります。中生代末期頃、大規模な貫入岩体として形成されたものが、現在このように広く地表に現れているのです。海岸の岩場で新鮮な礫を拾い、同時に風化した岩壁のものと比較して、花崗岩を構成している鉱物を比較・分類してみましょう。砂丘や浜辺の白砂は、このような花崗岩類の中の石英粒が堆積してきたものです。

—地質図—



## ●酒宴洞の由来とその周辺●

鴨ヶ磯の波うちぎわに見ごとな洞門があり、「酒もり洞門」とよんでいます。

昭和2年の夏、文豪として名高い島崎藤村が山陰海岸を訪れたとき、あまりの美しさに「山陰の松島」とほめたたえました。

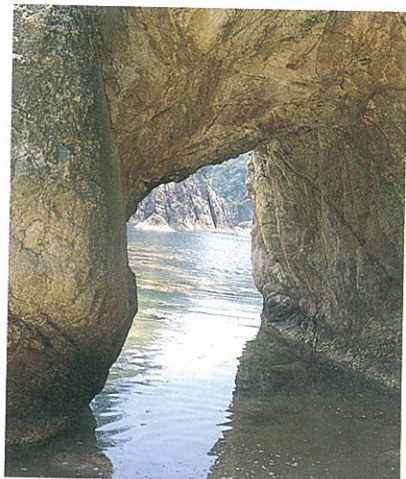
そしてこの海辺の洞門に入った彼は、海からの涼風と、あたりの景観にすっかり心をうばわれ、「この洞門は、直射日光は入らないし、風は涼しいし、この中で酒をくみかわしたらさぞかしおいしだろう」と称賛したということです。

それからのち、この洞門を「酒宴洞」とよび、藤村ゆかりの洞門として今もなお語り伝えられています。

付近の砂は、石英砂で白く、海中公園に指定されている海域なの

で透明度が高く、まるで絵に書いたような美しさです。

周辺には、網代の漁師「太郎兵衛」が遭難して流れついたという太郎兵衛島をはじめ、むかし菜種を積んだ船が難波して打ちあげられて以来、毎年春になるとナタネの花が咲くという「菜種島」や菜種五島など、伝説やロマンにとんだ島々が点在しています。



洞門

## 海中公園一口メモ

鴨ヶ磯から城原にかけての、菜種島を含む、沖合9.8haの区域は、海水の透明度が25mと高く、また、海中の景観がすばらしく、魚介類や海草など海の生物も豊富なため、国立公園の中の海中公園地区に指定されています。夏には磯や海中の自然観察などができます。

# NATURE LAND 自然探訪

## 山陰海岸コース

網代～田後紀行(5月下旬)

鳥取砂丘東側、浦富海岸に沿って、素晴らしい遊歩道が続く。この一帯は典型的なリアス式海岸。粒の粗い花崗(かこう)岩が波によって浸食され、美しい海岸線をつくり出している。大小166の島、多くの洞門、洞くつ。それに白砂青松が一体となった景色は「山陰松島」とも呼ぶ。国立公園特別保護地区に指定され、また名勝・天然記念物にもなっている。遊歩道沿いの岩場や砂浜には、海岸特有の植物が見られ、夏の海水浴に合わせて歩いてみることをお勧めしたい。

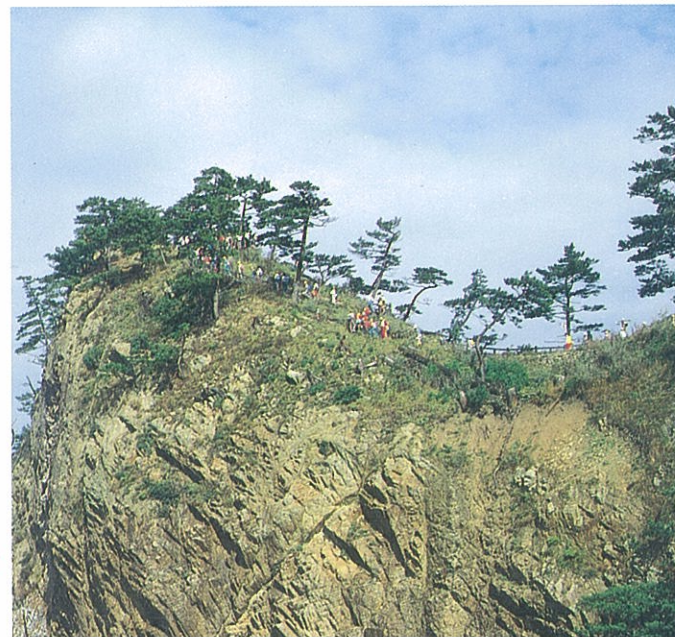
コースの起点を岩美町・網代港にとってみた。網代へは鳥取駅から1時間に1本程度バスの便がある。終点でバスを降り、港のイカ干し場に沿って海の方に進む。しばらくすると、網代漁協の油タンクの右手に「網代遊歩道入り口」の標柱が立っている。ちょっと見

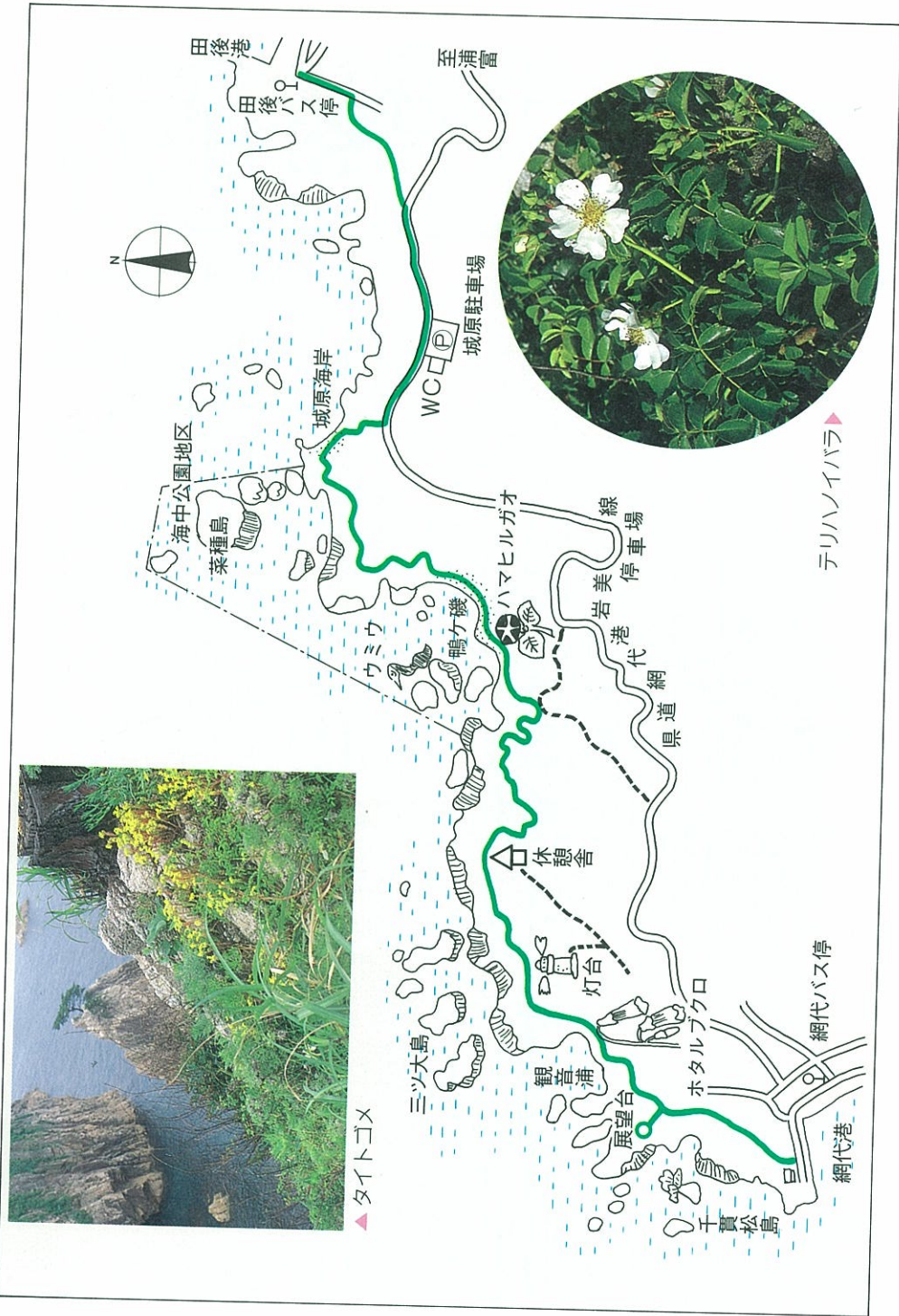
浦富展望台▶

にくい場所なので見落とさないように。

歩道に入ると立派な案内板があって、これから歩くコースの全体図が示してある。この案内板の裏ががけになっていて、海岸の岩場に特有のタイトゴメが今花盛り。岩肌一面に黄色い絨毯(じゅうたん)を敷き詰めたようだ。また、その中に交じってテリハノイバラやハマボッサの白い花も目立つ。

ここからいよいよ岩すそ伝いに上り始める。どういうわけか、この辺りにはハゼノキが多いので、





▲タイトゴメ



▲ハマボツスミ

草かぶれする人は要注意。

## 池田綱清公が命名の千貫松島

入り口から10分ほどで海岸の展望が開け、目の前に千貫松島が現れる。この島の名前は鳥取城の2代藩主池田綱清公が島巡りをした時、この島の松が目にとまり「これをわが庭に植えた者に銀千貫を与える」と言ったことに由来するとか。

足元にはホタルブクロやノアザ



▲ハマボツスミ

ミ、オカトラノオ、ウツボグサ、ヤマツツジなどが多く、花の散歩道といったところだ。また、トベラの多いところでは、まだ花の残っているものもある。

さらに進むと左手の高台に展望台があり、千貫松島や観音浦が一望される。ここからしばらくは階段の上り下りが続き、少々汗をかくことになるが、出発してから4、50分歩くとあずま屋がある。一服するのにちょうどいい。

ハルゼミの合唱、が松林のほうから流れ、海風が潮の香りを受けて吹き上げる。沖合には遊覧船も。

健脚向きには、山側に灯台へ続く小道もある。約10分で行ける。

一服したら鴨ヶ磯に向かって下って行く。20分ほどで到着するが、少し手前に県道へ通じる歩道との分岐点がある。緊急の場合などにはエスケープルートとして使える。

鴨ヶ磯は東西2カ所に美しい砂浜があり、今まで通ってきた岩場では見られなかったハマヒルガオ、スナビキソウ、ナミキソウ、ハマエンドウなどの砂丘植物が花を開いている。

この浜と浜の間には日露戦争当時の「露軍将校遺体漂着記念碑」があったり、花崗岩帯の中に石英斑岩の柱状節理が現れたりして、歴史的、地質学的に興味をそそられるところでもある。



## 海中景観に優れ 25位の透明度

鴨ヶ磯から菜種島にかけての9.8kmの海域は、特に海中景観が優れ、透明度も25位と高いことから海中公園地区に指定されている。学術的にも貴重な地域だ。

鴨ヶ磯を出ると、すぐに急な階段が続き、このコースで一番のハードワークとなる。しかし、ここを上り切って平面に三角むすび形の菜種島が見えてきたら城原（しらわら）海岸はもうすぐだ。

菜種島には、その名の通り菜種（菜の花）が自生しているそうだ。

城原海岸はこのコース最後のポイント。広い砂浜と岩礁が一体となった美しいところで、県道から

近いこともあって、これからのシーズンは海水浴を楽しむ人も多い。ここから県道までは5分ほどで、県道に出てから少し東に行くと、つい最近完成したばかりの城原駐車場に着く。

駐車場からコース終点の田後港へは15分ほど。県道から左手に分かれる細い方の道をどんどん下って行けばよい。港に出たところがバス停。岩美駅行きのバスが1時間おきくらいに出ている。

なお、少し離れるが、浦富海岸の東端、牧谷にある山陰海岸自然科学館では、昭和63年に映像ホールが完成し、9台の映写機を使ったマルチスライドで、鳥取砂丘や浦富海岸の自然を紹介しているので、足を伸ばしてみるとよいだろう。

▼ 菜種島(遊歩道から)



## 本陣山・摩尼寺コース



鳥取市の近郊に位置する本陣山から摩尼寺に至るコースを紹介しましょう。

鳥取市内から本陣山に向かうルートは、久松山を経由するもの、樗谿（おおちだに）神社から中国自然歩道を上るものなどがありますが、ここでは登山口が分かりやすく、比較的楽に歩ける長田神社からのコースを秋に歩いてみました。

